

一学期も終わりに近づき、梅雨あけ前のくもりがちなお天気の中、空を気にしながら、七夕の飾りつけをされている園も多いのではないのでしょうか。

くす玉などの飾りものを作ったり、願いごとや、将来〇〇になりたい、などと書いた短冊を笹竹につるし、字が上手になるように、又、子どもの成長を願ってお祭りします。それに中国から伝えられた、織り姫、彦星のお話加わり、七月の夜空を飾ります。

皆様の園では、子ども達に、どんなお話をしているのでしょうか？

*

私はこの年になっても、残念なことに“天の川”をはっきりと意識して見たことがありません。東京の空は明かるすぎで、大きな星しか見えませんし、信州の山の上で見た満天の星は、あまりの数の多さにみとれてしまい、天の川を見つけることができませんでした。

星を見ている時は、現実を離れ、何か

ロマンティックな気持ちになります。ところが今は空も汚れ、澄んだ星空を見る機会が少なくなっています。特に子どもには、夜も更けてあたりが真っ暗にならないとよく見えないので、見る機会がありません。そこで、プラネタリウムや星座表でお勉強……ということになるのですが、そこには、感動や興奮はわいてこないのです。

学生時代、合宿で行った八ヶ岳の寮で夜中に屋上上がり、皆で、満天の星空をたどらうととりとながめていたこと。又、何十年に一回の大流星群が関東地方で見られるというので、父と一緒に、埼玉の入間川の上流の河原までわざわざ見に行ったこと。最近では今年のお正月、東京にしてはめずらしく星がたくさん見えたので、寝ていた娘をおこしてながめたこと。……どれも、ただながめていただけのことなのですが、何万光年も離れた宇宙から届く小さな輝きの魅力は、私たちに大きなロマンを与えてくれます。(K)

幼児の教育

第九十一巻 第七号
(一九九二年七月号)

定価四五〇円(本体四三七円)

平成四年七月一日 発行

編集兼発行人 本田和子

発行所 日本幼稚園協会

東京都文京区大塚二一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

東京都港区三田五―二一―一

発売所 株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田小川町三―一

振替口座 東京九一―一九六四〇

電話〇三―三三―九二―七七八一

●本誌御購読の御注文は発売所フレーベル館にお願いします

●万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。